

10月29日(木) 10:00-12:30

司会：中村 孝(大阪大学)

◇主催者挨拶

◇来賓挨拶

◆基調講演

「 SIP プログラム「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」の構築に向けて 」



国立研究開発法人 科学技術振興機構
研究開発戦略センター
上席フェロー
木村 康則

[講演要旨]

本 SIP プログラムでは、Society5.0 の実現を目指して、モノを制御し、人を支援するエッジコンピューティング技術を構築する。講演では、プログラムの構成、開発状況、社会実装に向けての取り組み等について概説する。

[講演者プロフィール]

1981 年 東工大修士了。富士通株式会社入社、第五世代コンピュータ、プロセッサアーキテクチャ、並列化コンパイラ、京スーパーコンピュータ等の研究開発に従事。
2011 年 米国富士通研究所 CEO、2015 年 帰国、富士通研究所フェロー。
2017 年 科学技術振興機構 上席フェロー。
スタンフォード大学客員研究員。東京大学客員教授を歴任。博士(工学)。

◆基調講演

「 先端技術を支え未来へつなぐ HORIBA の「はかる」技術 」



株式会社堀場エステック
代表取締役社長
小石 秀之

[講演要旨]

イノベーションの創出を支える、分析・計測という「はかる」技術。HORIBA が提供する「はかる」技術を通じた多様なソリューションと、価値創造の源泉となる社は「おもしろおかしく」を軸とした企業文化についてご紹介します。

[講演者プロフィール]

1985 年 関西大学卒業。

同年、株式会社エステック(現・株式会社堀場エステック)入社。

株式会社エステック(現・株式会社堀場エステック)台湾支店支店長、ホリバ・エステック社(アメリカ)取締役社長を経て 2010 年 株式会社堀場エステック常務取締役就任、2011 年 同社 副社長就任。2016 年 4 月より現職。

2012 年より株式会社堀場製作所 執行役員を兼任、2014 年 4 月 同社 常務執行役員就任。

◆基調講演

「ポストコロナの世界経済は半導体産業が最大ドライバーだ！！ ～テレワーク、5G 高速、データセンターで巨大需要～」



株式会社産業タイムズ社
代表取締役社長
泉谷 渉

[講演要旨]

新型コロナウイルスショックは、第二次世界大戦に匹敵するほどの負のインパクトである。

当然のことながら、世界ではほとんどの基幹産業が一時後退を余儀なくされている。

しかし、唯一元気印の産業がある。それすなわち、半導体産業なのである。

2020 年の半導体市場はプラス成長で推移しており、この最大のけん引役はデータセンターである。

おそらくはワールドワイドでデータセンター関連投資は 12 兆円を軽々と超えてくる見通しである。

さらに、スマホの 5G 搭載機の投入も好影響を与えるだろう。

そして、自動車全体の生産は絶不調ではあるが、自動走行運転やエコカーへの開発はまったく止まることはない。それゆえに、車載向け半導体の動きが急ピッチで上昇してくる見通しだ。

テレワークをきっかけとして、ハイエンドのパソコン、タブレットなどの出荷は間違いなく伸びてくる。

また、ゲーム機の世界もコロナの影響でものすごい伸びを示している。

こうしたことを背景に、ポストコロナの世界経済は半導体産業が最大の引っ張り役に浮上してくることは、間違いのないところである。今回講演では、具体的な設備投資計画の現状を分析し、最新取材による各種データを提供するものである。

[講演者プロフィール]

神奈川県横浜市出身。聖光学院中高等学校を経て、中央大学法学部政治学科卒業。

1977年 株式会社産業タイムズ社に入社し、半導体担当の記者となる。以来30年以上にわたって第一線を走ってきた国内最古参の半導体記者であり、現在は産業タイムズ社代表取締役社長と特別編集委員を兼務する。

主な著書には『日本半導体50年史 時代を創った537人の証言』（共著・産業タイムズ社）、『日本半導体起死回生の逆転』、『次世代ディスプレイ勝者の戦略』、『半導体業界ハンドブック』、『電子材料王国ニッポンの逆襲』、『ニッポンの素材力』、『ニッポンの環境エネルギーカ』、『シェールガス革命で世界は激変する』（以上、東洋経済新報社）、『これが半導体の全貌だ』、『これがディスプレイの全貌だ』（以上、かんき出版）、『日の丸半導体は死なず』（光文社）、『100年企業～だけど最先端、しかも世界一』（亜紀書房）、『自動車世界戦争』（東洋経済新報社）などがある。
2011年～2013年 社団法人日本半導体ベンチャー協会会長。現在、一般社団法人日本電子デバイス産業協会理事・副会長。
